

## 不滅の福澤プロジェクト

## 2月は福澤諭吉先生を偲ぶ月

担当：社会教育課 瀬戸口、生涯学習推進室 花崎（電話 0979-62-9012）

2月3日は福澤諭吉先生の命日です。今年も先生を偲び、その遺徳を顕彰するために下記の関連事業を「不滅の福澤プロジェクト」として実施します。

**福澤諭吉先生 123 回忌法要及び記念講演会**

福澤先生のご冥福を祈るとともに、その遺徳を顕彰するため、福澤旧邸保存会では毎年2月3日に、法要と記念講演会を開催しています。今回は慶應義塾大学文学部人文社会学科教授の井奥成彦氏をお招きし、記念講演をおこなっていただきます。

## (1) 法 要

日 時：令和5年2月3日(金) 9:20～9:50

場 所：明蓮寺（桜町）



お参りの様子（令和4年）

## (2) 記念講演会

日 時：令和5年2月3日(金) 10:00～12:00

場 所：リル・ドリーム（宮島町7番地）

講 師：井奥 成彦 氏（慶應義塾大学文学部人文社会学科教授）

演 題：「独立」－福澤生涯のテーマー



井奥成彦教授



リル・ドリームでの講演の様子（令和2年）

**福澤諭吉記念事業**

中津にゆかりの深い偉人である福澤諭吉先生の功績を継承する記念事業を通して、子ども達が中津にゆかりの深い偉人である福澤諭吉先生に親しみや関心を持ち、もっと知ろうとする気持ちを育て、郷土中津を誇りに思う心情を育みます。

## 1. 近郊小・中学校書写展

- (1) 日 時 令和5年2月3日(金) 9:00~17:00  
 4日(土) 9:00~17:00  
 5日(日) 9:00~16:00  
 (15:00 から展示会場にて、表彰式)
- (2) 場 所 小幡記念図書館 研修室
- (3) 対 象 中津市、宇佐市、豊後高田市、吉富町、上毛町、豊前市、築上町の小中学生  
 (昨年度出品数 1490 点)

### (4) 課題 福澤諭吉に因んだ文字

学 年	課 題 1	課 題 2	(半切の1/4の場合)
小学校4年生	自 由	平 等	自由平等
小学校5年生	福沢文集	独 立	福沢文集
小学校6年生	学問のすすめ	独立自尊	課題は、どちらでも可
中学校1年生	心身の独立	西洋事情	同 上
中学校2年生	建学の精神	中津留別の書	同 上
中学校3年生	洋々春如海	文明論之概略	同 上

### (5) 賞について

- ・最優秀賞 各学年 1名 (計 6名)
- ・優秀賞 各学年 4名 (計 24名)
- ・入 選 各学年 20名 (計 120名)



## 2. 第14回「諭吉かるた大会」

- (1) 日 時 令和5年2月4日(土)
- 【低学年の部】 10:30 開会式  
 11:00 競技開始 リーグ戦  
 (1チーム2試合)  
 12:30 閉会式 表彰
- 【高学年の部】 14:30 開会式  
 15:00 競技開始 リーグ戦  
 (1チーム2試合)  
 16:30 閉会式 表彰



(2)場 所 如水コミュニティーセンター

(3)参加者 低学年の部（1～3年生） 高学年の部（4～6年生）

・1チームの選手は3人～5人と監督1名（監督は先生または保護者）

・昨年度参加 低学年（9チーム）、高学年（15チーム） 計80人

(4)試合の方法

- ・ 組み合わせは事前に事務局で抽選。
- ・ リーグ戦での勝敗と取り札数で順位を決定。（決勝トーナメントは行わない）
- ・ 低学年と高学年のそれぞれの優勝と準優勝チームを決定。

(5)「諭吉かるた」について

平成15年（2003年）に料飲三田会創立50周年を記念して発行されたもので、福澤諭吉の生涯やその教え、偉業などをいろはかるたで表しており、全部で48枚あります。

はじめは、記念パーティーの出席者や慶應義塾関係者等に配っていましたが、中津市が「諭吉かるた」を使用して、市内の学校対抗による大会を毎年開催していることを知り、福澤諭吉にゆかりの深い中津に定着したこの大会で、今後も継続的にこの「諭吉かるた」を使っ

てもらう方が良く、平成27年（2015年）に「諭吉かるた」の著作権と商標権が「料飲三田会」から公益財団法人福澤旧邸保存会に譲渡されました。

現在、「諭吉かるた」は、福澤記念館で販売しています。



(6)経 緯

○平成21年（2009年）に福澤諭吉肖像1万円札発行満25年記念事業の一環として、第1回を開催。

○平成24年（2012年）第3回大会から、参加者数が30チーム100人を超え、場所を錬心館に移して開催。

○平成27年（2015年）、料飲三田会から「諭吉かるた」の著作権、商標権が公益財団法人福澤旧邸保存会に譲渡される。

○平成31年（2019年）第10回記念大会からは、福澤旧邸保存会よりこの度寄贈された優勝カップを学校持ち回りとし、優勝の栄誉を讃え続けることとした。